

## 第 72 回番組審議委員会議事録

1. 開催年月日 令和 7 年 2 月 12 日(水)午前 10 : 30～11 : 30

2. 開催場所 和歌山県田辺市宝来町 8-21 泉ビル 2 階

3. 委員の出席 委員総数 : 6 名

出席委員 : 4 名

出席委員の氏名 : 野村悠一郎、小倉拓、橘智史、安

達克典、浅山誠一

欠席委員の氏名 : 畠守彦

放送事業者側出席者氏名 : 洞周作、生田奈穂、

濱田由希子、安田豊、

安田正

欠席者氏名 : 大崎健志

議題 1) 局側挨拶 (現状報告)

2) 議題

☐ 番組聴取

2024 年 12 月 7 日(土)13 : 00～14 : 54 に放送した特別番組「弁慶記

吹奏楽プロジェクト演奏会ハイライト」とのダイジェスト音源をご聴取、ご意見・ご感想

3) その他番組への質問・意見

4) 今後の放送に対する意見・要望

5) その他

## 局側挨拶・報告

### 1. 局側挨拶

洞：本日はお集まりいただき、ありがとうございます。今年もよろしくお願いいたします。

さて、前回の会議が昨年 11 月 20 日でしたが、その後、12 月 1 日に『弁慶吹奏楽プロジェクト総会』を開催し、無事に終了いたしました。当日は多くのお客様にご来場いただき、感動のあまり涙を流される方もいらっしゃいました。演奏者からも『今までで最高の出来だった』との声があり、非常に意義深いものとなりました。このプロジェクトは約 1 年半にわたる取り組みであり、終了後は達成感とともに、ホッとした気持ちもあります。現在、楽譜をホームページで公開しており、地域の演奏会などでも活用してもらえるよう準備を進めています。また、このプロジェクトの一環として、田辺シティブラスの皆さま

んが『弁慶記組曲』を、令和 7 年度 田辺市消防出初式で演奏してくださいました。このように、今後もさまざまな場面で楽曲が演奏される機会が増えていくことを期待しています。

弁慶の名を冠したこの楽曲が、地域のイベントなどで広く演奏されることで、より多くの方々にプロジェクトの意義や弁慶の歴史を知っていただける機会になればと思います。

## 2. 議題

### ～番組聴取～

野村：こういう演奏会を見るのは初めてだったので新鮮な気持ちでしたが、それはそれで良かったと思います。大きな楽器もありましたが自分たちで運んだのですか？

濱田：基本的に各自で楽器を持参しました。ただし、打楽器などの大型楽器に関しては、田辺シティブラスや田辺高校吹奏楽部の顧問の先生の協力を得て、いくつか貸し出していただきました。それらを集めて紀南文化会館へ運搬し、演奏に使用しました。

小倉：70 名の参加者の内訳は？

濱田：田辺市だけでなく、岩出市や和歌山市、新宮市の県内各地、遠くは東京都からの参加者もいました。

小倉：それはラジオで宣伝したのですか？

濱田：ラジオと、特設ホームページや SNS での呼び掛けにより、幅広い地域から関心を持っていただきました。さらに、各音楽団体との繋がりを活かし、「このパートが足りないから参加してほしい」といった形での勧誘も行いました。

小倉：特定のパートだけが増えるとバランスが悪くなると思いますが、募集人数に対して応募者が多い場合はどのように対応しましたか？

濱田：例えば、アルトサックスは人気が高かったため、募集開始から1か月半ほどで締め切りました。仰る通り、特定の楽器だけが多くなりすぎるとバランスが崩れるため、全体の編成を考えながら早めに募集を締め切るなど対応しました。結果として、県外からの参加者も多く集まり、広がりのある演奏会となりました。

小倉：市外、県外の人に参加されているのはすごいですね。練習はどうしていましたか？

洞：演奏会に向けた合同練習は、わずか3回のみでした。

濱田：最初の合同練習では、テレビ和歌山や紀伊民放といったメディアにも取材してもらっていたので、形にならなかったらどうしよう

という気持ちもありました。しかし、実際に演奏が始まると、『これはいけるかもしれない!』と思うほど、すでに演奏がまとまっていて驚きました。皆さんが事前にしっかりと準備をしてきてくださったおかげだと思います。

野村：人数が多ければ一人くらい間違えても気付かれないんじゃないですか？

洞：私もそう思います。本番では大きなミスはなく、田辺シティブラスをはじめ現役で楽団に所属している皆さんが基盤を作ってくれたおかげで、ブランクのある参加者も全体のレベルに引き上げられ、バランスの取れた演奏になったと感じます。

小倉：こうした演奏会を定期的を開催する予定はありますか？

濱田：はい、ぜひ続けていきたいと考えています。中には「毎年開催しないから今回思い切って参加した」と言ってくださる方もいました。毎年開催するのは難しいかもしれませんが、不定期でも開催できれば、吹奏楽のコミュニティーがさらに広がり、盛り上がるのではないかと思います。

小倉：紀北からの参加が多いというので田辺市に限らず、和歌山市など他の地域でも開催出来るといいですね。

濱田：はい。今回のような本格的な演奏会だけでなく、「楽器から離れていた人でも気軽に参加できる場」も作っていきたいです。音楽の質を極めるよりも、「楽器を演奏する楽しさ」を感じられる場として、誰もが気軽に参加できる演奏会が出来るといいなと個人的に感じています。

橘：子どもの関係で高校の吹奏楽の演奏会には行ったことがありましたが、今回初めてあのような演奏を聴いて新鮮な体験でした。特に印象的だったのは、奏者が手拍子を始めると観客も一斉に手拍子をし出すという場面でした。皆の気持ちが一つになっていて、とても感動しました。演奏者の皆さんもとても楽しそうで、観ていてこちらも嬉しくなりました。普段あまり吹奏楽を聴く機会がない私でも、今回の演奏会はとても楽しめましたし、実際に足を運んでよかったと思います。

浅山：私は当日参加できませんでしたが、演者の最後のコメントを聞いて、とても楽しんでいたことが伝わってきました。私たち青年会議所では、同年 11 月 23 日にシンガーソングライターの HIPPY さんと熊野高校吹奏楽部の皆さんによるライブを開催しました。その際に聞いたのですが、高校生の中には高校から吹奏楽を始めた人も多

く、演奏会の機会が少ないそうです。今回のプロジェクトを通じて、高校生だけを対象にした演奏会などを企画することにもニーズがあるのではないかと考えました。

洞：このプロジェクトを立ち上げた理由の一つに、子どもたちが「大編成の演奏会を経験できる機会が少ない」という課題がありました。本来は中高生をもっと多く集める予定でしたが、テスト期間が重なり、思うように参加者を集められませんでした。

浅山：なるほど。楽器の運搬にかかる費用の問題もあり、学校行事以外の活動にはなかなか予算を割けないということで実行委員会が持ち出したのですが、そのあたりのハードルがあると僕たちも感じました。

洞：元吹奏楽部の高校生から「楽器がないのでどうしたらよいか」という相談もありました。吹奏楽部でないため、学校の楽器を借りることが難しく、他の参加者から楽器を貸してもらうなどの対応を行いましたが、改めて環境整備の難しさを実感しました。

安達：このプロジェクトは大成功だったと思います。ここまでの計画と準備が大変だったことが伝わってきましたし、地域にとっても非常に良い影響があったのではないのでしょうか。テレビ和歌山にも取

り上げられていましたが、放送局の枠を超えるくらい影響力があったと思います。今後文化会館の改修工事が進んでいきますが、いずれ施設が整った際には、再び演奏会を開催する機会があるといいですね。さらに、弁慶の名前がつくことから、弁慶映画祭とコラボするなどの新たな展開も考えられるのではないのでしょうか。

橘：演奏会で指揮をしていた新谷さんは普段も指揮をしていますか？

濱田：はい、田辺シティブラスの指揮者として演奏会で指揮をされています。新谷さんの他、原曲の譜面起こしを担当した杉原さんにも指揮をしていただきました。杉原さんは紀南交響楽団の指揮者を務められています。

洞：元々熊野高校の吹奏楽部顧問を務められていて、参加者の中には杉原さんの教え子という方が何人もおられました。

濱田：熊野高校の現役吹奏楽部は1名のみの参加でしたが、卒業生たちは複数名参加しており、まるで同窓会のような雰囲気もありました。また、中学生の現役吹奏楽部員も1名参加しており、彼女は2月に開催されたソロコンテストのトランペットパートで金賞を受賞していました。



野村：年代問わず、見ず知らずの人たちがいる中に参加出来るのはすごいことですね。

濱田：吹奏楽という共通事項が繋いだご縁だと思います。演奏会終了後には紀南文化会館内でレセプションパーティーを開催し、参加者同士の交流を深めました。その場で「またこういう演奏会をやりましょう」という声が上がったり、新たな繋がりが生まれたりしました。

実際、今回の吹奏楽プロジェクトをきっかけに紀南交響楽団に入団した方もいたようです。『弁慶組曲』は6曲が組み合わせられて1つの楽曲になっています。そのため、例えばメインタイトルのみを演奏する場面も考えられます。今後、野球の応援などでも活用していただきたいと考えており、現在、各校に演奏してもらえるよう働きかけています。ぜひ応援をよろしくお願いします。

### 3.その他番組への質問・意見

特になし

### 4.今後の放送に対する意見・要望

安達：「終わらない話」という番組について教えてください。

洞：「終わらない話」は、パーソナリティのとしちゃんがさまざまな

ゲストを迎えてトークをする番組です。ゲストは町の社長さんなども多く、としちゃんが JC（青年会議所）などの繋がりを活かして、幅広い分野の方々を招いています。

安達：ゲストのブッキングは局でも把握しているのですか？

洞：事前に情報は聞いていますが、放送の内容はほぼ即興で進行しているので、その場の雰囲気が生きた、面白い放送になっています。

安達：よく分かりました。

浅山：吹プロのような特別番組はパッケージ販売しないのですか？

生田：ご希望があれば対応するという形を取っています。

浅山：田辺市は音楽が盛んな地域で合唱団なども活発に活動されているので、そういった企画番組を作り、パッケージ化し、販売することで新たな営業先を開拓できるのではないのでしょうか。

濱田：ありがとうございます。学童野球の場合、試合を実況生中継した後、その音声を記念として保護者の皆さんに販売しています。このモデルを他の特別番組にも応用したいと思います。

浅山：どのくらいの収益が見込めるのかは試算が必要ですが、例えば、パッケージを作ったり課金システムの導入などを組み合わせることで、面白いビジネスモデルになるのでは？

小倉：ちなみに吹プロの演奏会の音声は販売しないのですか？

洞：参加者の参加特典として配布する他、クラウドファンディングの返礼品として CD や mp3 データをご用意したのみで販売はしていません。当日お披露目された「弁慶記組曲」は現在 YouTube にアップしており、誰でも視聴できるようにしています。

橘：このプロジェクトは 1 年半ほどかけて準備されてきました。大きなイベントを毎年開催するのは難しいかもしれませんが、異なる形で継続的に取り組み定着させることで FM TANABE の価値もより高まるのではないかと思います。毎年の開催は負担が大きくても私たちも協力しますので、期待しています。

小倉：せっかく良い形でこのプロジェクトがスタートしたので、今後  
も広げていけると良いと思います。田辺市での開催に加え、和歌山市  
など他の地域でも公演を行うことで、より多くの人に知ってもらう  
機会が増えます。最初から 2 会場で開催するとなると、参加者や観  
客の分散などの課題もありますが、例えば 3 年に 1 回などのペース  
で開催することも選択肢の一つです。継続的に活動を広げていくこ  
とは重要です。また、ミニバージョンの公演など、楽譜の配布を活用  
し、さまざまな団体が演奏できるようにするのも良い方法です。せっ

かくゼロから生まれたこの取り組みを終わらせることなく、さらに発展させていけたらいいのではないのでしょうか。

野村：私たちは今「町内会リレートーク（第1（火）10：10～放送）」の次の出演者を自治振興課と打診しているところです。この4月からは町内会連合会と自治会連合会の2つの組織が統合されることになりました。これまで、会議や総会がそれぞれ2回ずつ開催されており、運営の負担が大きかったのですが、今後は1つの組織として運営されることになります。統合後は、田辺町内会長だけではなく、すべての自治会に公平な出演機会を設ける必要があります。現在、212の町内会があり、町内会や自治会の活動を活発に行っているところもあれば、運営が難しい地域もあります。「町内会長リレートーク」でも特に、龍神や本宮、中辺路、大塔といった地域も網羅できるようにしてほしいと思います。町内会長たちもFMの放送をよく聞いているようです。そういうところからFM TANABEと地域の信頼や繋がりを作る大切な役割を果たしていると改めて感じます。

濱田：月1回の放送ではありますが、電話出演も可能なので、より多くの町内会長の声を届けられるよう工夫していきたいと考えています。また、放送回数を増やし、週1回のペースで発信できるよう

な形にしていくのも良いかもしれません。

安達：放送のためにスタジオに来るということに緊張してしまう方も多いようです。レポート形式での収録や、事前に録音した音声を編集して放送するなどの方法もいいのではないのでしょうか。

濱田：柔軟な形で放送を行うことで、より多くの町内会長の声を届けられるよう工夫していきたいと思います。皆さん、ご意見ありがとうございました。今後の番組制作に活かしていきます。

## 5.審議機関の答申または改善意見に対して採った措置及びその年月日

特になし

## 6.審議機関の答申または意見の概要の公表方法

内容：審議内容について公表

方法：ホームページ掲載 (<http://www.fm885.jp/>)

## 7.その他参考事項

特になし